



散歩だより



【特集】 気になる市民活動団体へインタビュー

私たちを取り巻く環境・平和・子どもたちのことなど

小金井市気候非常事態宣言が発出されたのに、同じ市内でCO2を吸収する樹木がどんどん伐採されているのはおかしくない？化石燃料に頼らないエネルギーにシフトするのはいいけれど原子力発電が再注目されている現状ってどうなの？子どもの置かれている状況はますます息苦しさが増しているのではないだろうか？... 気になることが多々あります。これらは、市民自治こがねいの活動の柱である「こんな小金井にしたい／10の提言」の内容に関わることであります。

小金井は市民活動が盛んという言葉に耳にしますが、そのそれぞれに特化した活動を続けているさまざまな団体が市内にあることは皆さんもご存じのとおりです。そんな「気になる」市民団体で活動されている

方の生の声をおききし、その思いを知りたいと思いました。今回はその中から3つの市民団体を紹介します。中のページをご覧ください



い。対面でのインタビューを通して、伝え合うことや個人レベルでの繋がり大切さを改めて実感しました。互いの思いを共有し合い、小金井での活動を深めていければと感じています。

ロシアのウクライナ侵攻に思うこと...

戦争と隣人

ロシアのウクライナ侵攻後にJR恵比寿駅で、利用者からの「不快だ」という苦情にロシア語の乗換案内表示を一時覆い隠したというニュースに、がっくり。戦争はかくも簡単にヘイトを生むのか... (日本とロシアが開戦した訳でもなく、ロシア語を母語とするウクライナ人もいるのにね)。過剰反応なクレームに、駅という公共交通空間が屈するのはいただけない。その「不快だ」という苦情にどれほどの合理性があるものか、冷静な判断をしてほしかった。

ふと思ひ浮かんだのが、9.11後にアメリカで起こったイスラム系への排斥感情に立ち向かった日系アメリカ人。真珠湾攻撃で日米開戦となり、日系人が財産を没収され強制収容所に隔離された差別の歴史から、テロへの恐怖と復讐心による反イスラム感情に真っ先に異議を唱えた。当時ブッシュ政権の運輸長官として対応にあたった日系2世のノーマン・ミネタは、人種や民族に基づいた空港での保安検査を厳禁した。「互いを知ることが重要です。恐怖心は未知から生まれるのです。何かについて誰かについて知れば知るほど恐怖は消えていきます。」

このノーマン・ミネタの言葉をかみしめながら、こんな時こそ人種、民族、国籍の異なる隣人のことを、もっと知りたいと思う。(黒田真理子/前原町)

地域から平和のうねりを

2月24日に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻。いまなお、心痛む事態が続き、平和的解決の道は見えません。

そんな中、日本でも軍事に前のめりのきな臭い政策と発言がまかり通っています。「台湾有事」「沖縄の先島諸島への自衛隊配備・強化」、「防衛費GDP2%」、「敵基地攻撃能力」「核共有」...。そして、昨年秋の総選挙の結果を受け、憲法9条の改悪への動きも加速しています。

国際的な外交的力で緊張緩和へと向かうために、市民社会から軍縮の声をあげることが求められています。小金井では、市議会はロシアのウクライナへの軍事侵攻についての意見書を全員一致で採択。小金井市長も声明を発表。そして市民有志は武蔵小金井駅前「ウクライナに平和を」を掲げスタンディングを繰り返しています。

7月は参議院選挙です。その結果によっては、改憲に拍車がかかり、国のあり方が捻じ曲げられ、民主主義が脅かされます。「平和」と「民主主義」を選び取りましょう。(陣内直行/中町)

小金井玉川上水の自然を守る会（こだま）

玉川上水の自然環境と生物多様性を大切に育む活動を通し、玉川上水の自然を次世代に引き継ぐことを目的に、2017年2月に発足。桜だけじゃなく他の樹木も共存できるような玉川上水の管理の仕方を求めています。



ホームページ

関連団体情報（各ホームページへはワード検索で！）
 ちむくい（ちいさな虫や草やいきものたちを支える会）
 玉川上水ネット
 玉川上水みどりといきもの会議

5月1日、会の共同代表の橋本さん・田頭さんにお話を伺いました。

この会の活動を始めたきっかけは、玉川上水の樹木がバッサリと伐採されたことに驚きを感じて、という方がほとんど。このような玉川上水の管理の仕方の良いのか？桜の木のみ保存だけが大切で他の樹木や鳥や小動物の生態系を考えず、緑陰を失ってしまうのを見ごせない。法面保護のために樹木を伐採するというのも根拠はなく、樹木を伐採したことで日射を好む下草が繁茂しすぎたり、桜の幼木がつる性植物に覆いつくされたり、台風の被害（倒木率）も大きいなど、様々な問題が起きています。



そういった玉川上水の状況を、より多くの方に知っていただきたいという思いで「こだま通信」を出しているそうです。

今、ホットな活動は、「玉川上水みどりといきもの会議」と一緒に、近隣の皆さんにアンケートを取り、その結果をまとめた冊子をつくらせていること。同じ思いを持っている方が多数いることに励まされたと、おっしゃいます。しかし、玉川上水の管理については都の計画のもと行われるものではあるが、小金井市としての計画もあつたりと複雑で、その仕組みや内容が見直される気配はなく、切った木は戻らない。緑陰を取り戻すことにはもどかしさや多難さを感じたりすることもあるそうです。

また、玉川上水の管理に関しては、伐採だけではなく他地域でもいろいろな問題があつて、その時々に関連している団体からの情報が入り、共に活動をしているとのこと。



『こだま通信』

おっしゃることすべてが共感を感じることばかりでした。CO2を吸収してくれる樹木の保存や、人も野草も小さな生き物も共存していくという視点で、玉川上水を管理していくことの大切さを実感させられました。（佐藤記）

小金井 不登校 親の会 ココノコ

「地域の子育てを自分ごととして考え、皆で次世代を育む。」2019年より小金井市内で、不登校の親が集まり自分たちの悩みや思いを話す（放す）場として親の会を毎月開催（2021年からはコロナ禍のため難しくなっているが）している他、ウェブサイトでも情報発信もしている。



ホームページ

昨年は、2021年度小金井市提案型協働事業として、不登校支援シンポジウムを2回開催、また冊子「ひとりじゃないよ」を市と一緒に作った（学校・公民館・社会福祉協議会事務所、でみカフェ等に置いてある。）

※ぜひ手に取っていただきたいです。不登校の人の心に寄り添う内容になっています。



取材に応じてくださった代表の野内スザナさんは当事者ではない。身近で不登校の子とその親に接したのがきっかけだった。「学校に通う」という一般社会では当たり前とされているルールから外れてしまったことで、親も子も追い詰められてしまう。そんな状況を目の当たりにして、まずは親が思いを話す場が必要だと感じた。親の気持ちはダイレクトに子供に影響してしまうからだ。会ではお互いがアドバイスなどをするのではなく、ただ気持ちを分かち合うことを大切にしている。他の参加者から「うちの場合はこうだったよ」などと自然に話が広がることも多く、悩んでいるのは自分たちの家庭だけではないと知ることが、心の余裕に繋がっていく。まずは親が癒されることが大切だと野内さんは語る。



代表の野内スザナさん

親の会を続ける中で実感したのは、子どもが小中学生の場合は親も比較的対応しやすいが、高校、大学と年齢が高くなるにつれそれが難しくなり、周りから見えづらくなるということ。見えないところで何が起きていることが一番心配で、それを何とかしたい思いがある。義務教育を終えてしまうと、地元で支援を受けるのをためらう気持ちも強いそう。小・中をなんとかしのいでいても高校で発露というケースも実は多い。

孤独・孤立を生み出さないためには、地域の大人たちがどれだけ繋がれているかということが重要と野内さんは考える。コミュニティができていれば気軽に助け合える。これは子どもだけのことではなく、お年寄りにもいえること。特別なことではなく、お互い様当たり前な社会になることを願っていると話してくれた。（関根記）

小金井市放射能測定器運営連絡協議会（こがねい放射能測定室）

1986年4月のウクライナのチェルノブイリ原子力発電所事故がきっかけでスタートした「こがねい放射能測定室」は1990年から活動を継続しています。「こがねい放射能測定室だより」は28号まで発行（最新号は2022年3月）。とても充実した内容です。市の公民館、集会室などにおいてあります。ぜひご覧ください。



ホームページ

設立メンバーの一人中嶋さんと、2011年3月の東日本大震災後のメンバー矢澤さんに話をお聞きしました。（2022/5/4）

1986年当時日本の輸入食品の放射能制限値は370ベクレルとヨーロッパ並みの緩さ、しかも一部抜き取り検査。不安に思う市民たちが子どもの口にはいる食品の放射能を行政に測ってもらおうと署名を集め、1988年市議会に陳情を出し、全会一致で採択されました。その後紆余曲折を経て、市が機械を購入設置し、市民が測定業務をボランティアで担う協働事業として、1990年から測定活動がスタート。市民依頼の食品の測定と市立保育園や学校給食で使う食材測定（2012年に市が給食食材の測定事業を始めるまでの約20年間）を行ってきました。2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故の後、測定申し込みは3か月待ちになるほど急激に増え、それまで週1日測定（1日1検体）だったのを、秋からは週3日（1日2検体）に増加したとのこと（現在は週1回1検体）。又、2019年8月には新しい放射能測定器とパソコンに更新されました。これは市が行政としても食品放射能測定を継続していこうという判断のもとに決定されたと思われます。その背景には測定を継続してきたボランティアの人たちの地道な活動があったのです。

核の脅威と廃絶を伝えていきたい。原発と核は繋がっている。万一、原発が攻撃され1基でも破壊されたら日本は壊滅的状況になるでしょう（中嶋さん）。市民自身で測定し、放射能について欲しい情報が手に入る。市と協働で続けてきた貴重な活動なので大事に継続していきたい。一緒に活動する会員を募集しています（矢澤さん）。

今年2月のロシア軍ウクライナ侵攻後、チェルノブイリ原発が一時占拠されたとの報道を知り背筋が凍った。核戦争にならないことを心から願う。東京電力福島第一原発事故後、小金井放射能測定室には何度もお世話になった。小金井に無料で測定してくれる場があることが有難い。継続してそれを支えてきた市民たちがいることを忘れてはいけないと思う。（若林記）



29年ぶりの機器更新！

武蔵野公園はらっぱに5mのスピーカー設置？

武蔵野公園くじら山下のはらっぱに防災用スピーカーが設置される工事看板を発見した市民の要望で、現場説明会が開かれることになり参加しました。



東京都の説明では、はらっぱの貴重な自然環境が失われないように注視していきたい。緊急時に公園内にいる方への避難放送のため、近隣住民への騒音対策にも配慮しているとの事。しかしこの地域は府中市と小金井市、2市の防災放送が届くエリアなので、スピーカーを2、3個も付けた高さ5mのものを3棟も増設する必要があるとは到底思えません。すると、緊急時の避難放送以外にも平時、公園利用者に対する案内や注意喚起に使用すると説明が加えられました。理由は職員の現地巡回回避などだそうです。参加した市民から、住民への説明もないように自然再生事業に関連している場所なのに自然環境や生態系の調査もせず着手することへの抗議を受け、一旦工事は中断とし再検討を経て説明会が行われることに。貴重な自然環境が失われないよう今後も注視していきたいです。

NS/東町

コロナ体験記

2月中旬、のどに痛みを覚え咳も出てきたので念のため在宅勤務にしたその夜に猛烈な腹痛と下痢と悪寒に襲われた。翌朝には悪寒も下痢もケロツと治まったが、熱を測ると37.6℃。高くはなかったが、万一ということもある、PCR検査を受けよう、と思い、市のウェブサイトから市内で検査してくれる医療機関を探し片っ端から電話をかけ、幸い自宅から徒歩数分の病院でその日の午後4時に受けられることになった。

20分後に出た結果はまさかの陽性。家に帰るとスマホのショートメッセージ(SMS)に、厚労省からHER-SYS(新型コロナ健康情報管理システム)にログインするよう案内が入っていた。病院から保健所に連絡を通してきていたのだろう。

翌日多摩府中保健所から、療養中の注意事項と万一の場合の相談先、毎日決まった時間にHER-SYSに健康状態を入力するようというSMSが入る。市の健康課健康係にパルスオキシメーター貸与の申し込みをした際に係の人に支援物資の申し込みも勧められ、お受けすることにする。内容はこのとおり。

自宅療養期間が明けるタイミングで、勤務先からの指示でセルフPCR検査をした。採取検体の指定検査機関への郵送は、検体を入れたカプセルを紙で包み、それをビニール袋に入れて



小金井市からの支援物資

密閉しダンボール小箱に収め、それを封筒に入れる、という四重包装で。国連番号3373は生物由来物質(カテゴリーB)の危険品なのだ。



セルフPCR検査の検体

時を同じくして、都区内に住む長女も陽性となった。新宿のクリニックで検査を受けたのだが、そこから管轄の保健所への連絡があまり迅速ではなかったようだ。保健所からの連絡も特になくHER-SYS案内も来ず、いざというとき自分は適切に支援に繋がれるのか

不安そうだった。幸い彼女も症状が軽かったので心配は無用に終わったが、住んでいる地域により支援の質にばらつきがあるのは問題だと思った。ちなみに、パルスオキシメーター貸与と支援物資の申し込みは東京都の福祉保健局の自宅療養サポート事業「うちさぼ東京」にしたらしい。こちらの品ぞろえはすごかった！ひとり当たりダンボール2箱！

SY/前原町

編集後記

初孫が4月に就職し社会人になった。で、自分が18歳で東京に出てきた時のことや就職・結婚した当時のことなど思い返し、改めて東京暮らしになって50年以上も経つのだなあとしみじみした。半世紀って、孫からしたら遠い昔だよな。そりゃあ感覚の差は当然だなと思うことばかり。(み)

デザイン/岡田ちひろ

「市民自治こがねい」とは…

この小金井が、ひとりひとりの人権が尊重され、だれもが生き生き暮らし続けられる町であってほしい、この小金井を自治が息づく町にしたい。そのために市民自らが発信し、行動し、市政のあり方を変え、町づくりを進めていこう—そんな共通の思いをもつ市民たちのあつまりです。

会員を募集しています
&カンパ大歓迎!

- 会費 1口=3000円/年
- 賛助会員 1口=1万円/年
- ニュースカンパ 1口=1000円/年
- 郵便振替 00130-6-352041
市民自治こがねい



市民自治こがねい で検索!
<https://www.sijiko.com>